

8) 家庭科

調理実習に関する取り組み

本校では、毎年3～4回調理実習を実施している。3、4時間目に昼食を兼ねて1食分の献立を調理し、試食、後片付けを実施するのだが、家庭での調理経験の少ない生徒が多く、例えば、スープが出来上がってから、慌てて食器を取りに行くなど先を見通した行動がほとんどできない。作業の中での無駄な動きや5人のグループ内での意志の疎通が図れていないことで間違った手順、時間内に終了しない等の失敗が数多く起きる。調理実習を、単に作って食べるだけではなく、生徒に意識させることで「思考力・判断力・表現力」が身に付く調理実習を実践しようと試みた。それが今後の人生で経験する家庭生活に活かすことが出来るように仕向けていきたい。

昨年度は、要領よく実習を進め、出来上がりを揃えるためにどのようにメンバーそれぞれが動けばよいか、前時に役割分担をし、実習後は、反省会を実施した。また、生徒が自己評価できる調理実習のルーブリックを作成した。

【昨年度作成したルーブリック】

調理実習ルーブリック評価（生徒用）1年___組___番 氏名_____合計点___点				
	A 3点	B 2点	C 1点	小計
事前説明	・実習の目的を理解できる ・4つの食品群を完成することができ、過不足の改善を考えることができる	・実習の目的を理解できる ・4つの食品群を完成させることができる	・実習の目的を理解できない ・4つの食品群を完成することができない	
実習計画	・グループ内で時間配分ができ、平等な役割分担と材料の持ち寄り分担決めができる	・平等な役割分担と材料の持ち寄り分担決めができる	・役割分担をすることができない ・分担決めに参加できない	
実習	・班員と協力して、計画に基づいて実習することができる ・お互い声を掛け合って、スムーズに実習できるよう進めることができる	・計画に基づいて実習することができる ・お互い声を掛け合って実習できる	・各自のペースで実習をして意志の疎通ができていない	
	・完成時間、試食時間、片付け時間を守ることができる	・完成時間、試食時間、片付け時間をほぼ守ることができる	・時間を守ることができない	
反省	・感想・反省の中から、今後に向けての課題を見つけることができる	・感想、反省点を見つけることができる	・実習の感想、反省を書くことができない	



【計画を立てる】

【今年度1年2クラスで実施】
61人の結果（15点満点）

合計点	10点	11点	12点	13点	14点
人数	1人	9人	14人	35人	2人

【問題点】

- ・61人中8割以上の生徒49人が12点と13点に集中し、評価に差がつかない。
- ・評価基準が細分化されておらず、大まかなため、生徒自身判定が分かりづらい。
- ・先を見通した動きを意識して、グループで協力できたかを判断する評価項目が少ない。
- ・自己評価のため、甘くつけてしまう傾向がある。

等の問題点が見つかった。

【改善案】

そこで自己評価ではなく、グループ内での複数による他己評価で、しかもグループ内での持ち点を定めることで評価、判断すれば、生徒の動きが実態により近い形で評価ができるのではないかと考えた。

【ルーブリックの見直しと『相互活動評価表』の導入】

調理実習：相互活動評価表 1年__組__番 氏名_____ 班_____						
	出席番号					合計
	氏名					
	I～Vそれぞれのグループでの持ち点を15点(5人) 12点(4人)として評価する					
I	実習前時 実習説明 役割分担 決め 材料分担 決め	・意欲的に聞くことができる ・話し合いがリードできる ・自主的に役割を申し出る ・代表レシビ、買い物カードの記入				15 ・ 12
II	実習準備 身支度 持ち物	・身支度が素早くできる ・忘れ物がない ・指示通りの食材が準備できる				
III	実習態度 I 姿勢 動き	・意欲的に動く ・動きに無駄が少ない ・自分の役割を果たす ・臨機応変に対応できる				
IV	実習態度 II 声掛け コミュニケーション 協力性 片付け	・指示ができる ・お互いに助け合える ・後片付けが意欲的にできる				
V	反省	・積極的に意見が言える ・次回に向けての課題が言える				12
	合計					※

【グループでの
反省会】
↓



※総合計は
75点又は60点

10月の調理実習後に個人の反省、グループでの反省会の後、この相互活動評価表を6クラス全員に実施した。実施前の注意点としては、「自分自身も含め、班員を公平な目で評価をすること」「全員が同じ3点ずつのような当たり障りのない評価はあり得ない」「この評価は他には公表しない」等の説明をした。結果、どの生徒も、時間をかけ、グループ内の相互評価に真面目に取り組む姿勢が見られた。

【C組5班 5人グループの評価結果一覧】

		男1への 評価	男2への 評価	女1への 評価	女2への 評価	女3への 評価
評価項目 I～Vの 合計点	男1の評価	15点(3)	11点(5)	15点(3)	18点(1)	16点(2)
	男2の評価	14点(4)	13点(5)	16点(2)	17点(1)	15点(3)
	女1の評価	11点(5)	13点(4)	17点(2)	20点(1)	14点(3)
	女2の評価	13点(5)	14点(3)	17点(1)	14点(3)	17点(1)
	女3の評価	14点(4)	14点(4)	16点(1)	16点(1)	15点(3)
5人の評価の合計		67点(4)	65点(5)	81点(2)	85点(1)	77点(3)

斜体は
自己評価

()内は
グループ内順位

【結果の考察】

5人の評価を比べてみると、グループ内順位が大きくずれておらず、グループへの貢献度がほぼ生徒の動きに反映された形で評価されていると考えられる。6クラス42グループの多くでこの傾向が見られた。グループ内での持ち点を定めたことがこちらの意図する結果につながった。

今回初めての取組みで試行錯誤しながら進めたため生徒に評価させる際、用紙の裏に改善点を記入させた。複数の意見として出たのが「一人当たり3点の持ち点だとひとりに4をつけると誰かを2をつけなくてはならない。」「5段階評価にした方がつけやすい」であった。

今まで調理実習は、1クラス全員の動きを一人の教員で評価することには無理があり、現実にはプリントでの事後評価だけだった。しかし、「相互活動評価表」を利用すれば、点数化することができ、成績に反映することが可能であることが分かった。今後は、今回の反省を活かして更に改善し積極的に利用していきたいと思う。
(文責：西崎)